

エレン・G・ホワイトの生涯 ～SDAに大きな貢献をした、一人の女性の物語～

Seventh-day Adventist Church

1827 年 11 月 26 日、米国メイン州ゴーラム Gorham で出生（末っ子、命名：エレン・ハーモン）。

父：ロバート・ハーモン（帽子職人）、母：ユーニス・グールド・ハーモン、

兄弟：①ロバート・フルトン・ハーモン、②エリザベス・アン・ハワード、③エスター・ハウエル・ベルデン、④ウィリアム・クロフォード、⑤メアリー・クラスビー、⑥ジョン・ハーモン、⑦アン・マリア・ハーモン、そして⑧エレン・ハーモン（末っ子）。

→参考：1827 年：江戸時代、文政 10 年、第 11 代征夷大將軍、徳川家斉（とくがわいえなり）

1833 年、ウィリアム・ミラーが説教をする許可証を受け、第一天使の「神のさばきの時がきた」というメッセージが正式に宣言され始めた（希望への光 P.1755）。

1836 年（推定）、9 歳の時、クラスメートの投石で顔に大怪我（鼻骨が折れて、彼女は昏睡状態で 3 週間、主治医は再臨を信じる Dr. レビ・ストックマン）。そして重病を併発し、勉学を続けることができなくなり、ついに 12 才以後は学校の門をくぐったことがないという不幸な状態に陥ってしまった。若いエレンにとって、顔は醜くなり、健康は衰え、勉学の希望を捨てなくてはならぬことは、耐えられないことであったが、彼女はその苦境を、ひたすら信仰によって乗り越えて行った。

1840 年 2 月 13 日、3 月、6 月、農夫（1815 年軍隊を退役）ウィリアム・ミラー（1816 年 5 月、初めてバプテスト教会へ、バプテスト教会員ーイングランド国教会の分離派思想から発生したキリスト教プロテスタントの一教派、妻：ルーシー・ポリーナ・スミス）の再臨に関する講義（メイン州ポートランド、再臨使命、大切なのは再臨の日時ではない、主を信じることです）を聴く（12 歳）。

1840 年 3 月 20 日、W・ミラーとジョシュア・ハイムス、サインズ・オブ・ザ・タイムズ（SIGNS OF THE TIMES, The Second Coming of Christ、新聞形式）発行。

1840 年 8 月 11 日、オスマン（オットマン）帝国の崩壊により、**第六番目のラッパ（黙示録 9：15＝四人の天使は、人間の三分の一を殺すために解き放された。この天使たちは、その年、その月、その日、その時間のために用意されていたのである）の預言が成就する**。それによって第一天使のメッセージに大いなる力が添えられ、再臨運動が一段と促進された（希望への光 P.1756）。

1840 年 10 月 13 日、★**再臨（ミラー）運動**、最初の集会（ボストン、主催：ハイムス）に参加（苦しみの中で神の救いを求めるようになる）。ジョセフ・ベイツ（元船長、アドベンチスト教会設立の中心的役割を果たす）、ハイラム・エドソン、オーウェン・クロザー、サムエル・スノーたちもこの時、参加（W・ミラーは体調不良で欠席、この頃は、牧師を含め W/ミラーを否定する者たちも多くいた）。

→**再臨（ミラー）運動**：バプテスト派の信徒説教者、W・ミラーが再臨切迫運動を展開。黙示録 14：6～8 の三天使のメッセージを説き、約 5 万人※¹の信者が再臨運動に加わった。E・ホワイト（→「説教は怖いだけで、慰めも平安もなかった」）も、再臨運動が神に導かれ、預言された運動であると確信した（→「各時代の争闘」下巻）。

1842 年 6 月 26 日、沈めのバプテスマを受け、メソジスト・エписコパル教会員になる（14 歳）。

→後年、「高慢で野心的」であったので、「この世の成功や虚業を奪ったこの厳しい試み（9 歳の時の投石による顔の大怪我）がなかったなら、私の心をイエスに捧げることがなかったでしょう」と記している（英文ライフスケッチス P. 39）。

1842 年 6 月、アメリカにおける殆どのプロテスタント各派の教会は、ウィリアム・ミラーが宣言した第一天使のメッセージを拒否、そして教会は墮落していった。その結果、第二天使の「バビロンは倒れた」という預言が部分的に成就した（希望への光 P.1778 バビロンは倒れた）。

1843 年 9 月、再臨信仰が教会に受け入れられず、家族と共にメソジスト教会を除名（→牧師：「腐ったリンゴは取り除かなければならない、教会の伝統を守ることは重要だ」）される。

父「人の言葉よりも神の言葉に従います。そのために追い出されるなら仕方ありません。家族は心から主の再臨を希望に喜びを覚えています。そこにイエスの愛があり、私たちを導き、高め・・・。」

（「TELL the WORLD ～ 全世界に宣べ伝えよ」より）

1843 年、ニューハンプシャー州、ワシントン、レイチェル・プレストン夫人、長老に「土曜安息日」を訴える。

W・ミラーと彼に従った人々は、1843 年頃に再臨があると信じていたが、再臨はなかった。彼らは次第に再臨の日を特定するようになっていった。

1844 年 10 月 6 日、W・ミラー、ジョシュア・ハイクスに「祈りと御言葉の学びから少しずつ第七の月の光が見えてきました。天の故郷までもう少しです。栄光あれ！」といった手紙を送る。

（「TELL the WORLD ～ 全世界に宣べ伝えよ」より）

：

1844 年 10 月 22 日（＝ユダヤ・カライ暦：第七の月の 10 日）、S. S. スノーが特定、W・ミラーは日付の特定に反対）、イエスの再臨はなく、**大失望**を迎える（翌日、再臨ではなく、至聖所に移られ、キリストの新しい奉仕の働くが始まったとダニエル書 7：13、14 の聖句に気付く by ハイラム・エドソン、オーウェン・クロザー）。

「兄が新しいニュースを携えてきました。」

「主は再び来られると約束されました。それは、御自分の民を連れ帰るためです。聖書は、イエスの初臨で“時が満ちて”と書いています。イエスの十字架は AD31 年の春、70 週の預言の最後の週の真中です。聖書は、過越しの祭りは春、贖罪の日は秋と書いています。大祭司は“贖罪の日”に何をするのでしょうか？」（スノー）。「聖所の清め」（ジェームズ・ホワイト）。「主は聖所を清められます。それは贖罪の日に行われるので、その日に主が来られるのではないのでしょうか。レビ記には、贖罪の日は第七の月の 10 日だと書いています。間違った日に再臨を待っていたのです。今年のユダヤ暦の第七の月の 10 日は 10 月 22 日です。そう、1844 年 10 月 22 日です」（スノーは「夜半の叫び」—マタイ 25：6—と呼んだ。このメッセージにより、1844 年 7 月には一部のミラー派にリバイバルが起こった）。—この時に、W・ミラー、ジョシュア・ハイクス、ジョセフ・ベイツ、ジェームズ・ホワイトらがいた。そして、この時、W・ミラーは「日時を定めるのは愚かだ」と語った。

後日、W・ミラーは妻ルーシー・ポリーナ・スミスとの会話で、「僕の勘違いで、再臨を 1843 年と計算し、皆を混乱させた。でも、スノーの説を考える必要はある。僕も日付について祈り、調べるよ」と述べた。（「TELL the WORLD ～ 全世界に宣べ伝えよ」より）

→W・ミラーは後、健康状態が悪化（パーキンソン病？）、1848 年 1 月視力を失う。1849 年 12 月 20 日死去。

【参考】三つのS＝聖所(Sanctuary)、安息日(Sabbath)、預言の賜物(Spirit of Prophecy)

【参考】大失望後、聖書研究に参加した人たち

ジョシュア・ハイクス（メソジスト教会牧師、出版事業）、サムエル・スノー（会衆派信徒）、ジェセフ・ベイツ（クリスチャンチャーチ、船長）、チャールズ・フィッチ（長老派教会、牧師）、ハイラム・エドソン（メソジスト教会、牧師）、ジェームズ・ホワイト（クリスチャンコネクション、牧師）、トーマス・プレブル（バプテスト教会、牧師）、エレン・ホワイト（メソジスト教会、信徒）、ジョシュア・リッチ（メソジスト教会、牧師）、レイチェル・プレイトン（第七日バプテスト教会、信徒）、他、聖公会、ルター派、ピューリタンなど様々な牧師たちや信徒

1844 年 12 月、エレン、ポートランド（アメリカ合衆国オレゴン州北西部マルトノマ郡にある都市）での祈りの会（ハインズ夫人、姉エリザベス同席）で最初の幻―再臨信徒の経験とキリストの再臨、そして忠実な者に与えられる報い―を示される―を与えられる（17 歳、病弱）。

非難（警告）の声：「彼女は独り立ちできず、父親は帽子職人。伝道の経験など全くない。イエスは偽預言者に気を付けるように（とおっしゃった）。彼らは羊の皮を着た狼だ。」

（「TELL the WORLD ～ 全世界に宣べ伝えよ」より）

天使：「私は神の使者である。もっと上を見上げなさい。これは終わりではなく、始まりである。」

E・G・W：「暗い世界のはるか上に細い道が見えます。再臨信徒はその細い道を輝く聖なる都を目指して歩いています。彼らの足もとを照らす明るい光は『夜半の叫び』だと天使は言いました。その光こそミラーのメッセージです。再臨信徒の歩みはここから始まります。誰でもイエスを見つめている旅人は安全に聖都へ導かれます。イエスから目をそらすと道から外れてしまいます。するとイエスは右手を伸ばして彼らを励まされ道に迷った信徒の群れに光が注がれ、皆は大声で叫びます。ハレルヤ（主をほめ賛えよ）！」（「TELL the WORLD ～ 全世界に宣べ伝えよ」より）

多くの信者が失望、落胆のどん底にあった時、エレンは神から公の召命を受けた。ときに彼女の健康状態は実に悪く、肺患により右側は完全に侵され、病巣は左肺にも及び、心臓もまた非常に衰えていた。人間の目から見る時に、彼女はほとんど廃人同様であり、召しに応ずることは冒険に近いことであったが、エレンは、信仰をもって神の召命に応じた。当時、彼女は 17 才であった。―

最初の幻の約一週間後、第二の幻―これからの試練、神からの啓示を伝える使命、その働きには神の支えがある―を与えられる（この第二の幻で、神は彼女をメッセンジャーとして召命された）。その後与えられた第三の幻で励まされ、勇気を持って周囲の人々に証しを始める。

1846 年 8 月 30 日、元教師／再臨信徒で信徒説教者／牧師ジェームズ・ホワイトと結婚（18 歳、メイン州ポートランド裁判所）、エレン・グールド・ホワイトと名乗る（出会い：ジェームズ 23 歳、エレン 18 歳）。結婚直後、ジョセフ・ベイツの第七日安息日の小冊子を読み、第七日安息日を守るようになる。

1847 年 4 月 3 日、E・G・ホワイト、天の聖所に関する幻が与えられ、十戒の第 4 条を示され（→この第 4 条こそ、天と地とその中のすべてのものを造られた生ける神を明らかにする唯一のものである）、第七日安息日の重要性を深く認識する。8 月 26 日、長男ヘンリー・ニコルス誕生。

1848 年 4 月～10 月、メイン州、ニューヨーク州等で開催された安息日会議出席。

1848 年 11 月、出版事業開始をするようにとの幻やタバコなどの害に関する幻を与えられる。

1849 年 7 月、「現代の真理」THE PRESENT TRUTH 等を発行。次男ジェームス・エドソン（エドソン・ホワイト）誕生。

1850 年 11 月、「ザ・セカンド・アドベント・レビュー・アンド・ザ・ヘラルズ」発行。

1850 年 12 月、天に秩序があるように地上の教会にも秩序と組織が必要であることを幻で与えられる。

1851 年、最初の著作「エレン・G・ホワイトのクリスチャン経験と幻の概略」出版（→1882 年出版「初代文集」に納められる）。

レビュー・アンド・ヘラルド 1851 年 8 月 19 日号 今や真理が伝えられるところではどこでも、扉は開かれている。（「TELL the WORLD ～ 全世界に宣べ伝えよ」より）

1852 年 4 月、ニューヨーク州チェスターに移転、印刷所設立。

1854 年、「エレン・G・ホワイトのクリスチャン経験と幻の概略」の「補遺」出版（→1882 年出版「初代文集」に納められる）。

1854年8月29日、三男ウィリアム・クラレンス（ウィリー／W・C・ホワイト／ジョージ・ステイト）誕生。

1855年11月、ミシガン州バトルクリーク（「戦いの川」という意）に移転。同地にレビュー出版社設立（編集長：ユライア・スミス）、末に「教会へのあかし」（16頁のパンフレット）第一号出版。

1858年3月14日、オハイオ州ベッツグローブでメッセージの根幹、中心課題となる各時代の争闘に関する幻（約2時間）を与えられ、その内容は、9月に「霊の賜物」第一巻（219頁）として出版される（→後に「初代文集」に納められる）。→福澤諭吉が1858年（安政5年）、慶應義塾大学を創設。

1859年11月24日、チャールズ・ダーウィン「**種の起源**」出版

1860年10月1日、**組織の名称が「セブンスデー・アドベンチスト」に決まる**（1863年、宗教団体として組織化、ミシガン州バトルクリーク）。

1860年12月14日、四男ジョン・ハーバート、生後三か月で病死。

1861年10月、**セブンスデー・アドベンチスト教会ミシガン教区発足**。

1863年5月、世界総会（信徒3500人、牧師30人）。初代教団総理にジョン・バイトンが選出される。

1863年12月8日、長男ヘンリー・ニコルス病死（肺炎、16歳）。

1863年6月5(6)日、ミシガン州オッセゴでサンセット礼拝中に健康改革に関する幻を与えられる。

1864年、「霊の賜物」第四巻出版（健康改革に関する幻の内容を含む）。

1865年8月16日、ジェームズ・ホワイトが脳卒中で倒れる（看病：～68年）。

1865年12月25日、医事伝道と病院事業に関する幻を与えられる。

1866年9月5日、西部健康改革センターWestern Health Reform Institute 開設式出席、病弱事業開始（→バトルクリーク衛生病院へ）。

1868年8月、「狭い道」の夢（幻）を与えられる（1869年1月12日版レビュー・アンド・ヘラルド誌に、「A Dream[夢]」というタイトルで掲載される）。

1868年9月1～7日、最初のキャンプ・ミーティング開催。

1870年、「預言の霊」第一巻出版。

1872年、「適切な教育」記す。基礎教理25箇条出版。

1872年6月、セブンスデー・アドベンチストの最初の学校を開校（生徒：ジョン・ハービー・ケログ、ウィリアム・ケログ、ジョージ・ステイト、ジェームス・エドソン・ホワイト、ウィリアム・ホワイト他、計7名）

1872年9月、カリフォルニア州に最初の伝道旅行。「教会へのあかし」第三巻出版。

1874年4月1日、海外伝道活動の重要性についての幻を与えられる。

1874年8月14日、ジョン・N・アンドリュースを海外宣教師としてスイスに派遣する。パシフィック・プレス社、伝道雑誌「サインズ・オブ・タイムズ」を出版。

1875年1月3日、諸外国（スイス、ノルウェー等）における出版事業に関する幻を与えられる。

1875 年 1 月 4 日、バトルクリーク大学開校式出席。

1875 (明治 8) 年、[同志社大学](#)の前身である同志社英学校 (「志を同じくする者が創る結社」) 創立 (キリスト新教改革派教会組合派・カルヴァン主義プロテスタント会衆派 新島襄)。

1877 年、「預言の霊」第二巻記す。

1878 年、「預言の霊」第三巻記す。

1881 年 8 月 6 日、ジェームズ・ホワイ特死去 (60 歳)。

1882 年、「初代文集」出版。

1884 年、「預言の霊」第四巻出版 (「各時代の大争闘」の原型)。

1885 年 7 月 13 日～1887 年 8 月 11 日帰国、ヨーロッパ伝道協議会の要請でヨーロッパ各地を訪問。

1888 年、「各時代の大争闘」出版、その後の一連の書物、「人類のあけぼの」(1890 年)、「キリストへの道」(1892 年)、「祝福の山」(1896 年)、「各時代の希望」(1898 年)、「キリストの実物教訓」(1900 年) 等で、イエスの贖罪による救いを説いた (カリフォルニア州ヒルズバーグ)。

ミネアポリス (ミネソタ州東部に位置する都市) 世界総会 (10/17～11/4)。総会に先立って開かれた牧師会で A・T・ジョーンズと E・T・ワゴナーが信仰による義の提示を行い、エレン・G・ホワイ特も支持したが、一部の指導者等が拒み、総会は混乱した。

1889 (明治 22) 年、[関西学院](#)創立 (アメリカ・南メソジスト監督教会宣教師ウォルター・ラッセル・ランバース)「原田の森」(兵庫県菟原郡原田村、現在の神戸市灘区王子町)。

1890 年、「人類のあけぼの」出版。この頃、エレン・G・ホワイテの盗作疑惑等が表面化 (P. 156～)。

1891 年 3 月 21 日、世界総会時、南部伝道を勧告。後、息子のジェームス・エドソンが 1895 年からミシシッピやテネシーなどの南部各地で伝道開始。

1891 年 11 月 12 日 (63 歳) ～1900 年 8 月 (72 歳)、世界総会の要請 (陰謀) により、オーストラリア伝道へ。

→メルボルンに聖書学校設立、医事伝道 (病院事業)、「キリストへの道」(1892 年)、「キリスト教教育」(1894 年)、「祝福の山」(1896 年)、「各時代の希望」(1898 年)、「キリストの実物教訓」(1900 年)、「患難から栄光へ」(1911 年)、「各時代の大争闘」(1911 年) 等を完成、出版。

【参考】エレン・G・ホワイテの苦悩と決意の手紙

1891 年の終わり (→11 月 12 日、夫のジェームス・ホワイテは 1881 年 8 月 6 日に死去している) に、エレン・G・ホワイテは、世界総会の (悪意ある：谷口) 要請にこたえて、オーストラリアで新しく始められた仕事をサポートするために、オーストラリアで 9 年間 (→この間に、「キリストへの道」「祝福の山」「各時代の希望」「キリストの実物教訓」を出版、1900 年 8 月アメリカに帰国する) も生活することになりました。しかし、到着して間もなく、苦痛の多い長引く病気にかかってしまうのです。その時に書いた手紙が残されています。

「どの手紙も、一ページから二〇〇ページにわたって、私が書いたもので、そのほとんど全部が、枕を使ってベッドによりかかり、半分横になり半分座ってか、または、あまり気持ちの良くないいすに座って、元気を出しながら書いたものです。座ることは、私の腰と背骨の下部に、非常な苦痛を与えます・・・正しく座って、頭をあげていることは、とても疲れます。私はいすの背に枕を置いて休み、半分よりかかっていなければなりません。これが現在の私の状態です。

しかし私は少しも失望してはいません。私は毎日支えられているのを感じます。退屈するような夜の長い

間、多くの時を祈りに用いました。すべての神経が苦痛のために叫んでいるように思われる時、キリストの平和が私の心にあふれてきて、私は感謝と賛美に満たされるのです。私はイエス様が私を愛してくださることを知っています。そして私もイエス様を愛しています。ある時は三時間しか眠りませんでした。しかしこの長い夜の暗闇の中で、私の周囲は輝き、神様との交りを楽しんだのです。

はじめに私がどうすることもできない状態になった時、広い海を越えて来たことを深く後悔しました。なぜアメリカにいなかったのだろう。なぜこんな犠牲を払ってこの国に来たのだろう。何回も何回も私はベッドの掛ぶとんに顔を埋めて、思う存分泣きました。しかしいつまでも涙にくれてばかりはいませんでした。私は自分に言いました。

『エレン・G・ホワイト、あなたは何を考えているのですか。あなたが行くのが最善だと教会が判断したところに行くことが自分の義務と思ったから、オーストラリアに来たのではありませんか？ それがあな

なたがいつもしてきたことではありませんか』『はい』と私は答えました。『それならあなたがほとんど見捨てられたと思い、失望を感じるのなぜですか。それは敵のしわざではありませんか』『そうです。そう思います』と私は言いました。私はすぐに涙をふいて、『もう十分です、もう物事の暗い面は見ません。

生きるも死ぬも、私のために死んでくださった方に魂をお任せします』と言いました。

私は主がすべてを良くしてくださることを信じ、どうすることもできない八か月の間、気落ちすることも疑うこともなく過ごしました。今はこのことをこの国の信者のためにも、アメリカの信者のためにも、私のためにも、主の大きな計画の一部と見るできるようになりました。その理由も、どうなるのかも、説明はできませんが私はそう信じています。そして私は苦しみの中にあっても幸いです。私は天の父なる神に頼ることができます。その愛を疑いません。日夜見守ってくださる保護者があり、私は主を賛美します。心に感謝があふれるので、唇は主を賛美するのです。」

参考：「セレクトッド・メッセージズ」エレン・G・ホワイト 著 二巻 P.242

1980年代半ばから、不況の影響もあり教会経済は悪化、多額の負債を抱え、**危機的状況**となる。

→献金減少、支出増大、バトルクリーク衛生病院建築費援助、不適切な支出：不必要な指導者の海外旅行等。

霊性低下と世俗化 当時、教会が直面していた大きな問題の一つは、指導者たちの**霊性低下と世俗化の問題**でした。E・ホワイトは、1890年11月3日とその後の幻の中で、バトルクリークの人々が大事なことについて神にではなく人の知恵に頼っている、神に関する大事な事柄が経験不足の人々の手にある、指導者たちは自分たちの意見に賛同する人たちだけを集めている、など極めて大事な事柄が示された。1892年、E・ホワイトは「自己中心、貪り、誇り、争い、心の頑なさ、肉欲、悪しき慣習」が教会の中に見られる（→代表例：レビュー出版社）、と書き、また清められていない牧師たちが完全な改革を経験しない限り、牧師の働きを去るべきである、とまで訴えた。

（エレン・ホワイトーその生涯とメッセージー山形正男 P.24）

中央集権化 もう一つの問題は、世界総会を中心とした中央集権化と統合化の問題であった。世界総会の総理と少数の人々は、教会のあらゆる面で支配権を行使し、小さなことまで彼らの承認を求めた。また、レビュー出版社、バトルクリーク衛生病院、バトルクリーク大学の指導者たちは、同種の機関を一つの理事会のもとにまとめて統合化しようとした。そうすることで、働きの一致を保つことが出来る、経済的である、効率的になると主張した。

E・ホワイトは、1890年代を通して教会のこのような過ちを「**少数の人々に権力を集中したり、一つの機関を他の機関のもとに置くことは神の計画ではない**」「**大きな権力が少数の手に委ねられるとき、サタンは断固たる決心をして判断を誤らせ、誤った原則をほのめかし、誤った方針を持ち込みます**」と指摘、改革を訴えた。また、**中央集権のもとでは、人々は権威のある者に導きと支持を求め、最も大事な神に依存するという経験を失ってしまう**、と警告した。教会は明らかに改革が必要でしたが、指導者たちは改革の一步を踏み出せなかった。

(エレン・ホワイトーその生涯とメッセージー山形正男 P.25、77)

1900年8月、帰国。カリフォルニア州サントヘレナ衛生病院に近い地、エレムスヘーブンに居住。「教会へのあかし」第六巻出版（教育に関する重要な証しを含む）。

1901年4月1日、世界総会出席（バトルクリーク）の前日、バトルクリーク大学図書館で開かれた指導者たちの集まりに出席する。その時（1980年代に明白になった諸問題がこの時点でも未解決の状態）、E・ホワイトは、中央集権体制の過ちを再度述べ、**少数の者が十分な知恵と力を持つべきという考えは誤りで、全く異なった体制、再組織化が必要である**ことを訴えた。

1901年4月2日、世界総会出席（73歳）し、約1時間にわたり、代議員たちに厳粛なメッセージを行い、構造と経営において問題点を指摘、譴責する（大変革、再組織化の必要を力説）。結果、中央集権化等の問題を是正、新たに世界総会責任者にA・G・ダニエルズを選ぶ。併せて、借金体質からの脱極を決める。

1901年8月、南カリフォルニア地方における病院事業の重要性の幻を受け、大きな病院を建てるより、病院を各地に建てる必要性を神より示される（→**小さなことから始める**、参考文献、P.35～）。

Let's start small.

1902年、SDA負債額200万ドル（内、一信徒より73,000ドルの借入）。「教会へのあかし」第七巻出版（医事伝道に関する重要なあかしを含む）。

1903年、世界総会、レビュー出版社がワシントンD・Cに移転。「教育」出版。

1904年、パラダイス・バレイ「教会へのあかし」第八巻出版。

1904 年 10 月 2 日、バトルクリーク教会で約 2500 人の会衆の前で、エレン・ホワイトが預言者としての呼称に関して言われたエピソード

「私が預言者であると主張したことは、一度もありません。誰かが私をそう呼んだ時は、別に争いはしませんでした。しかし、私の仕事は多方面にわたっているので、使命者、すなわち神の民に神より与えられた使命を伝え、神の指示に従っていかなる方面の働きでも取り上げるために遣わされた者、と言うよりほかはなかったのです。この前、バトル・クリークに行った時、多くの会衆の前で私は自分が預言者であるとは言いません、と話しました。二回このことに触れ、そのたびに『私は預言者であるとは言いません』と言ったのです。もし私がもっと別の言い方をしたとすれば、私が言おうとしたことは、私は預言者とか女預言者とかの肩書きを主張していない、ということでした。みなさんにこのことをわかっていただきたいのです」。(セレクトッドメッセージ 1 P.30)

「お話の中で、私は自分が預言者であると主張したことはない、と言いました。ある人々はこの言葉を聞いて驚きました。そして、これについていろいろなことが言われましたから、私が説明しましょう。他の人たちが私を預言者と呼んだことはありますが、私は一度もそう言ったことはありません。私は、私自身をそう言わなければならない、と感じたこともありません。今日、大胆にも自分は預言者であると言っている人々が、しばしばキリストのみ業に対して非難を招いています。私の働きは、この名前よりはるかに広い範囲にわたっています。私は自分を、主がその民のための使命をゆだねられた使命者 (メッセンジャー) だと思っています。」(セレクトッドメッセージ 1 P.32)

1905 年、ローマリンダ衛生病院設立を勧告・尽力。看護学校設立。「ミニストリー・オブ・ヒーリング」出版。→ローマリンダ：USA カリフォルニア州サンバーナーディーノ郡の都市

1906 年、ローマリンダ衛生病院献堂式で講演。

1906 年、ローマリンダ医事伝道大学設立 (1909 年 12 月、カリフォルニア州が認可)。

※ J・H・ケログ医師 (1907 年除名)、A・T・ジョーンズ牧師、A・F・バレンジャー牧師等と見解、方針の違いにより離別。

1909 年 5～6 月、世界総会出席 (ワシントン D・C)、81 歳。～ニューイングランド各地、ポートランド等を旅行。「教会へのあかし」第九巻出版。ローマリンダ医科大学に関する勧告 (「教会へのあかし」第九巻、P. 173-178)

1910 年、ローマリンダ医科大学が高度な教育内容を含む大学であるべきことについての勧告。

1911 年、「患難から栄光へ」出版。「各時代の争闘」改訂版出版。

1913 年、「両親、教師、生徒への勧告」出版。

1913 (大正 2) 年、専門学校令による上智大学の開校 (カトリック修道会イエズス会)。

1914 年、「国と指導者」執筆。

1915 年 2 月 13 日、腰骨折、車いす生活を余儀なくされる。3 月 3 日、最後の幻を受ける。「福音宣伝者」改訂版出版。

1915 年 7 月 16 日、カリフォルニア州のセントヘレナ市で死去 (享年 87 歳)。

1916 年、「国と指導者」発行。

彼女はその多忙な生涯において、一大叢書ともいべき数多くの本を著わしたが、主なものだけでも 50 数冊にのぼる。そしてその中の主だったものは、各国語に訳されて、長年にわたって何百万部も読まれている。たとえば『キリストへの道』は、100 の言語に訳されて、全世界で 1400 万部も発行されてきた。そして今なお手をつけられていない多数の原稿が、「エレン・G・ホワイト著書刊行委員会」の手で保管されている。

彼女の多くの著作の中で、「争闘シリーズ」とよばれる 5 冊からなる大作は、彼女の代表作として知られている。それはまた、最も読みごたえのある著作でもある。その 5 冊とは、『人類のあけぼの』『国と指導者』『各時代の希望』『患難から栄光へ』『各時代の大争闘』である。

出バトルリーク

1980 年代のバトルリークには、世界総会本部、レビュー出版社、バトルリーク大学、バトルリーク衛生病院があり、SDA の本拠地となっていた。バトルリーク衛生病院は、J・H・ケログの指導の下、巨大化していた。同時に、バトルリークの SDA の霊性低下（敬虔や献身の精神が希薄で、この世的自己中心の精神になっていた）、原則から離れた経営が E・ホワイトを悩ませていた。

→1902 年 2 月 18 日、バトルリーク衛生病院大火

1902 年 12 月 30 日、レビュー出版社大火

E・ホワイトは、何より世界総会などの諸機関がバトルリークでなく、他所で新しい雰囲気、環境のもとに働きを進めて行くべきと主張、出バトルリークを説いた。

（エレン・ホワイトーその生涯とメッセージー山形正男 P.30 他）

参考文献等：エレン・ホワイトーその生涯とメッセージー山形正男 著 福音社

TELL the WORLD ～ 全世界に宣べ伝えよ（製作：オーストラリア教団）他

※1：1844 年の秋、聖書の預言にあるように、彼らは大失望を経験します。そのあと、約 5 万人もいた再臨信徒のほとんどが去って行きます。そのような状態の中で、聖霊の御臨在によって神の力とお恵みに満たされたほんの僅かな数の人たちは、主のみ前で心を低くして共に祈りながら、信仰をもつてもう一度「小さな巻物」を深く探っていった時、更なる真理の光が与えられました。そして、真理に基づく一致が可能となって、1846 年には再臨信徒の数が約 50 人となり、ついに 1863 年、私たちのセブンスデー・アドベンチスト教会が誕生したのでした。

【参考】再臨が遅くなっている理由

Had Adventists, after the great disappointment in 1844, held fast their faith, and followed on unitedly in the opening providence of God, receiving the message of the third angel and in the power of the Holy Spirit proclaiming it to the world, they would have seen the salvation of God, the Lord would have wrought mightily with their efforts, the work would have been completed, and Christ would have come ere this to receive His people to their reward. {1SM68.1}

もし再臨信徒たちが、一八四四年の大失望のあと、信仰を堅く持ち、神の摂理に従って一致して前進し、第三天使のメッセージを受け入れて聖霊の力によってそれを全世界に宣べ伝えていたなら、主は彼らとともに力強く働かれ、み事業は完結し、キリストはご自分の民を迎えて報いを与えるために今より前に来られたはずでした。{セレクトッドメッセージ1 エレン・G・ホワイト P.78}

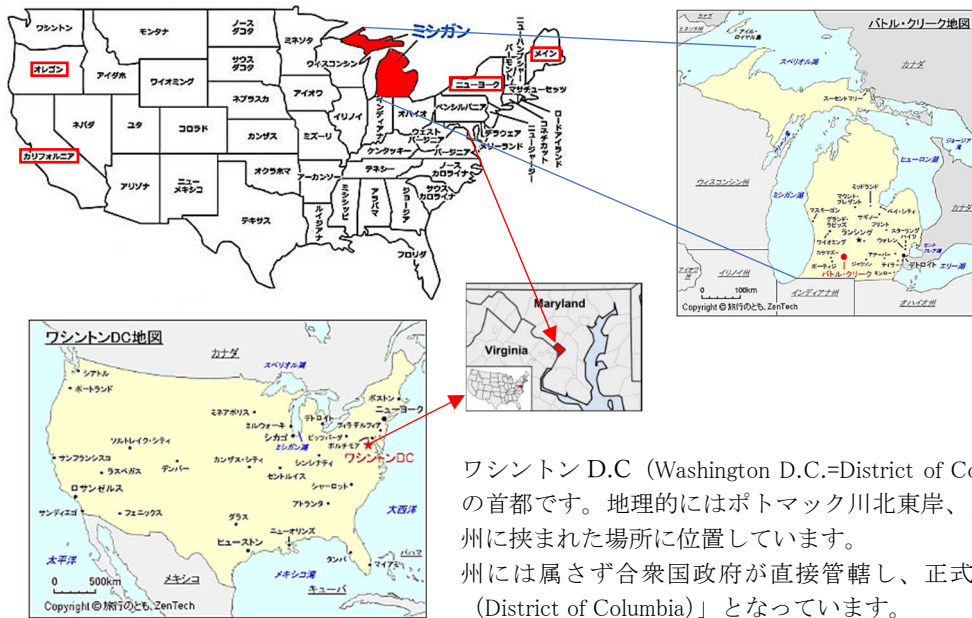
【参考】2014 年 11 月 17 日に米国のスミソニアン博物館が発行する雑誌にエレン・ホワイトは米国の歴史上 100 人の最も重要人物の一人に選ばれている。

Smithsonian
MAGAZINE

【参考】メソジスト(Methodist)

18 世紀、英国でジョン・ウェスレー（John Wesley、1703 年 6 月 28 日～1791 年 3 月 2 日、英国教会の司祭）によって興されたキリスト教の信仰覚醒運動の中核をなすメソジズム Methodism に生きた人々、および、その運動から発展したプロテスタント教会・教派に属する人々を指します。メソジストという名称は「メソッド」を重ねることから「几帳面屋」（メソジスト）とあだ名されたことに始まった。麻布中学・高等学校、青山学院、関西学院、東洋英和女学院等の [ミッシヨンスクール](#) や病院の建設、貧民救済などの社会福祉にも熱心である。

【参考】ミシガン州バトルクリーク 他



ワシントン D.C (Washington D.C.=District of Columbia) は、アメリカ合衆国の首都です。地理的にはポトマック川北東岸、メリーランド州とバージニア州に挟まれた場所に位置しています。州には属さず合衆国政府が直接管轄し、正式名称は「コロンビア特別区 (District of Columbia)」となっています。

※誤記等があれば、ご一報ください。三田キリスト教会（聖書研究会）谷口 20230919